

令和6年度 大田区立矢口西小学校 自己評価 報告書

令和7年3月14日

○ 本校の概要

・大正9年に、矢口村立矢口西尋常小学校として開校し、今年度104年の歴史のある学校である。前身の江戸時代に開かれた豊岡塾から数えると、下丸子の地に約200年の歴史を刻んでいる。  
 ・現在は普通学級21学級、特別支援学級3学級、全校児童670人の比較的大規模な学校である。  
 ・昭和に建てられた鉄筋校舎が老朽化し、現在新校舎の設計が進み、本年度より新校舎建設が始まっている。校庭が今後数年間使用できないため、多摩川グラウンドや近隣の学校をお借りして、体育の授業や体育的行事を実施している。  
 ・平成21年に作られた「ほたるの里」では、地域の方々の協力で4年生の総合的な学習の時間「ほたるの学習」をしたり、近くに多摩川があるので遠足や理科、総合的な学習の時間に観察などに行ったりして地域を活用した学習に取り組んでいる。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未 成来し 社会 すを 創造 的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していき、困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	児童アンケートの設問「タブレットを使った学習やプログラミング学習などは、将来役に立つと思いますか」に肯定的な回答をした児童の割合	4: 80%以上	○本校では、平成30年度より東京都の指定を受けてプログラミング教育の推進校としての取組をしてきた。そこで、教職員や児童にとってICTを活用した学習はスムーズに行えている。 ○総合的な学習の時間には、タブレットだけでなく図書資料等も活用して調べ学習を進め、発表やプレゼン能力も育成している。 ●ICT活用については、低学年も計画に沿って取り組んでいる。今後は、使用頻度や活用場面の開発も考えていく。	A	7	○コミュニケーションツールとして、アプリも、プログラミングだけでなく実際のGoogleDriveの使い方なども学習して欲しい。 ○是非アナログ的なことも持続して頂きたいです。 ○社会の課題とICTとの関係をもう少し説明があればと思いました。 ○子どもの時からタブレットの操作に慣れておくことは、成人してからの人生に役に立つと思います。タブレットの活用以外にも、子ども達の創造力や課題解決力を引き出して行っていただくことを期待します。 ○昨年、2024年6月14日に4年生に矢口西小学校のホタルの里の歴史や、ほたるの一生について講義させて頂きました。その際、ほたるに関してお互いに質問をしたり、返答のやり取りをしましたが、先生方の教えと図書室タブレットの活用で予習を各自が行っていた。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上				
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 60%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 60%未満				
お世個 お界別 たと目 をつ標 担な2 うが 人 材国 際育 都成 市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	児童アンケートの設問「日本や外国(言葉や文化など)について学習することは、将来役に立つと思いますか」に肯定的な回答をした児童の割合	4: 80%以上	○昨年度から高学年の英語は、外国語担当の講師がALTと共に授業を行っている。そのため、以前よりも専門的な学習となっている。 ○外国語の授業だけでなく、6年生の図工の授業や全学年の道徳の授業などで、日本の良さや美しさにも触れる内容の学習をしている。それにより、愛国心の育成を図っている。 ●SDGsについては、総合的な学習の時間などで取り組む学年があり知識・理解はできている。しかし、実践する力や態度の育成には至っていないので、次年度は何かしらの手立てを考えていきたい。	A	6	○多文化共生の授業も取り入れた方が良い。 ○郷土の伝統という面で地元町会とのふれあい、盆踊り、お祭り等共有していきたいです。 ○日本の良さを英語で表記できると思いますが、その辺のつながりはどういう風になっているのだろうか。 ○国際的な感覚を学ぶことは素晴らしいと思います。海外だけでなく、引き続き郷土愛も育てていただき、地元を愛する子どもたちが増えることを望んでいます。 ○来校している大人に、姿勢を正しく挨拶をしている。1年生、2年生に顕著である。指導が徹底されていると思う。SDGsに関連しては、中学生以上のテーマだと思っています。必要性が理解出来れば良いと思います。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上				
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 60%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 60%未満				
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		4: 80%以上				
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上				
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 60%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 60%未満				
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		4: 80%以上				
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上				
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 60%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 60%未満				



学 校 別 力 目 ・ 標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケートの設問「授業は分かりやすいですか」に肯定的な回答をした児童の割合	4: 80%以上	4  ○本校では、独自に教員経験3年までの教員に年次研修を実施している。校内で人材育成を図るような取組を行うことで、教員の指導力向上に努めている。 ○児童の興味を引くような教材を取り上げたり、授業の中で話し合いをさせたりすることで、児童の発想や考えを引き出すような工夫ができた学級が多かったのはよかった。 ○校内研究では、算教科を通して指導力を高める取組をした。今年度は複線型交流という、児童同士の意見交流や教え合い等を取り入れたことで、学び合いの姿勢が少しずつ身に付いてきている。  ●夏休み前に全学年の各教科における授業改善プランを作成している。しかし、これを有効的に活用するには至っていない。次年度は教員が共通理解を図る機会をきちんと設けていきたい。 ●教員の働き方については、超過勤務80時間以上が〇になるよう仕事の効率化を図るようにし、会議の精選等も行う。	A	6	○教員の方の働きやすさを充実させてほしいです。展示会を見て、各学年ごとの発表項目が工夫されていてとても良かったと思います。○授業が分かりやすいというアンケート結果を素晴らしいと思います。引き続き学校の組織的な運営力の教科に取り組んで頂ければと思います。○とても良い指導であると思う。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3: 70%以上		B	1	
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3		2: 60%以上		C		
		④教員は校内研究やOJTを通して、自身の指導力を向上させる取組を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		1: 60%未満		D		
た 自 個 め 分 別 の 目 学 し 標 び く 5 を い 支 き 援 い き ま と す 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えらるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケートの設問「学校は、楽しいですか」に、肯定的な回答をした児童の割合	4: 80%以上	4  ○特別支援学級と通常学級の児童の交流は行事を中心に行っているが、休み時間に交流する姿も見られるようになってきている。 ○特別支援教室巡回指導教員やスクールカウンセラー、担任が、報告・連絡・相談を行い、必要に応じてケース会議も実施している。 ○いじめに関しては、職員会議の際に重要なところについて確認する時間を設けたり、職員夕会で生活指導主任がいじめに関する話をしたりすることで、教職員の共通理解を図っている。 ○Hyper-QU(学校生活意欲と学級満足度を等を知るための質問紙)という調査を年2回実施している。今年度は、その結果を生かすために、外部から講師を招いて教員の研修会を夏季休業中に実施した。学級集団の傾向の見方や学級づくりのためのゲーム等を用いた手法を学んだ。それにより学級経営に生かそうとした教員も増えてきた。 ●校内のいじめ対策委員会での話し合いが、発見後になることが多いので、未然防止、早期発見に努めたい。	A	6	○改築における子ども達のストレス、不登校についてきめ細やかな対応をお願いしたいです。○学校が楽しいと感じている児童が多いというアンケート結果は素晴らしいと思います。先生と生徒が互いに認め合い、高め合っていると素晴らしいと思います。○児童アンケートの設問に「学校は、楽しいですか」は、違和感がある。「学校で困っている事はありますか」(1:ない 2:ある)ある人は、どんな事ですか?等。いじめの問題は、早期発見、即対応が必要です。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3: 70%以上		B	1	
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		2: 60%以上		C		
		④学校生活調査やWebQUなどの結果を生かし、児童理解や把握に努めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		1: 60%未満		D		

<p>安柔個 心軟別 なで目 教創標 育造6 環的境 な学習 空間と 安全・</p>	<p>学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。</p>	<p>①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。</p> <p>②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。</p> <p>③児童が自らすすんでタブレットを活用して調べたり、まとめたりするようなICT環境を整備し、情報モラル教育もしっかり行う。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4</p> <p>3</p> <p>3</p>	<p>4:80%以上</p> <p>3:70%以上</p> <p>2:60%以上</p> <p>1:60%未満</p>	<p>保護者アンケートの設問「学校はタブレットなどのICT機器を活用して、個別学習や協働学習を工夫している」に、肯定的な回答をした保護者の割合。</p> <p>3</p> <p>●改築中のため、校庭も含めて学校の施設設備が十分とは言えない。今後数年間は場所や学習内容を工夫して安全に学校生活が送れるように務める。</p> <p>●児童のタブレットの破損件数や時間外での視聴、不適切な書き込みなど、不適切な使用も見られ、指導が徹底できていないこともある。情報モラルについて、更にしっかりと取り組んでいくことは課題である。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>5</p> <p>2</p>	<p>○ICTの実際の授業が観たい。</p> <p>○教育や教養は、読み書きソロバンの時代から、PC、AIと道具が増えてきています。しかし、教養は、読み書きで身に付くものと思います。タブレットの扱いや操作指導は、大変だと思います。</p>
<p>学地学個 校域校別 をコ・目 つミ家標 くユ庭フ リニ・地 まテ域 すイ域 の核連 と携し て協働 による</p>	<p>地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。</p>	<p>①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。</p> <p>②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。</p> <p>③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。</p> <p>④学校の活動情報等をホームページで公開及び更新することにより情報を発信している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:週1回以上更新した。</p> <p>3:月1回以上更新した。</p> <p>2:学期1回以上更新した。</p> <p>1:更新しなかった。</p>	<p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>2</p>	<p>4:80%以上</p> <p>3:70%以上</p> <p>2:60%以上</p> <p>1:60%未満</p>	<p>保護者アンケートの設問「学校は地域の力をこどもたちの教育活動に生かしている」に、肯定的な回答をした保護者の割合。</p> <p>4</p> <p>○令和7年度4月から学校運営協議会(コミュニティスクール)を開始できるよう準備をすすめることができた。4月からは今以上に学校・家庭・地域が連携し、協働できるようにしていく。</p> <p>○近隣の幼稚園や保育園児を招き、交流会を実施したり展示会を参観してもらったりできた。また、矢口特別支援学校の児童との直接交流や展示会への展示協力などで連携を図ることができた。</p> <p>○PTA・おやじの会・スクールサポートによる行事や活動が昨年度同様、関係者のおかげで活発に行えたのはよかった。児童にとって楽しい活動がたくさんあり充実していた。</p> <p>●HPIについては、学年によって更新回数に差が出てしまった。次年度はどの学年も同じようにアップできるようにしていきたい。</p> <p>●次年度は「おおたの未来づくり科」という新教科が始まるので、さらに地域の方や企業などの方たちの協力を得て、体験や一緒に取り組めることを考えていく。それを通して地域を愛する心情も培っていく。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>5</p> <p>2</p>	<p>○「地域イベント」の「掲示」「ポスター」「コンテンツ」など使って広めて、児童、保護者に周知すつ事も考えて欲しい。よろしく願いいたします。</p> <p>○地域との連携については、引き続きよろしく願いいたします。引き続き地域に対する情報発信に期待しています。</p> <p>○左記に、令和7年4月からCSIについて記載されていますが、まずは、矢口西小学校の児童だけの発達だけに力をそいで頂きたい。家庭はともかく、地域や企業を取り込むことは、時間がかかります。矢西には、東町会、下丸子三丁目町会、四丁目町会、矢口南町会、その他があります。最終目標は、矢口地区の子どもたちの成長だと思っています。今後とも矢口西小学校の子どもをよろしく願い致します。</p>
<p>○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。</p> <p>○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。</p> <p>○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。</p>									